

平成 30 年度

大阪府立寝屋川高等学校

学校教育自己診断

結果と分析

実施日 平成 30 年 12 月

ホームルームで実施

実施対象 生徒 1146 / 1157 (99.0%)

保護者 766 / 1157 (66.2%)

教職員 52 / 71 (73.2%)

生徒編

質問全15項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が80%を超えた項目は、今年度も9項目（H29は9項目、H28は10項目）だった。昨年度に比べると、次の3項目で肯定的回答のポイントが向上している。

- 学校で命の大切さや人権について学ぶことがある
- 学校は生徒の健康の保持増進や安全対策に取り組んでいる
- 学校には悩みを相談できる人や場所がある

生徒が安全で安心して学校生活を過ごせることが、学校の根幹であり、本校の前年度に述べた人権教育に対する学校の組織としての取り組みが徐々に進行した結果である。同様に教育相談の取り組みについても、教育相談係の丁寧な対応や学年全体で情報共有をして組織として対応したことも上記の結果につながったと思われる。また、地震や台風の自然災害時の緊急体制が一定機能したことが評価のポイントになったと思われる。評価の点で多少の向上は見られたが、まだ改善の余地はあり、今の状態を継続しつつ、次年度に向けてさらなる防災意識向上のための取り組みや基礎学力を引き上げ、自己実現につなげていくための工夫が必要である。

- 学校は授業以外の講習や補習など学力向上のための場を設定している
- 学校生活は満足していて入学してよかったと思っている
- 自分は学園祭や体育大会など学校行事に積極的に楽しく参加している
- 自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う

上記の4項目が評価の下がったものだが、特に「自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う」が減少している。寝屋川高校で過ごす生徒の自尊感情を高める工夫を安全・安心がある程度安定している中だからこそ、一番の課題として取り組む必要がある。

①：肯定的回答の割合 ②：否定的回答の割合

項目	平成30年度	平成29年度
学校で命の大切さや人権について学ぶことがある	①87.4	①76.2
学校は生徒の健康の保持増進や安全対策に取り組んでいる	①75.8	①72.2
学校には悩みを相談できる人や場所がある	①76.6	①74.6
学校は授業以外の講習や補習など学力向上のための場を設定している	②10.7	②7.6
自分は学園祭や体育大会など学校行事に積極的に楽しく参加している	②15.4	②7.9
学校生活は満足していて入学してよかったと思っている	②13.7	②11.5
自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う	②28.1	②22.9

保 護 者 編

質問全15項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が80%を超えた項目は、今年度は11項目（H29は11項目、H28は12項目）だった。昨年度に比べると、次の3項目で肯定的回答のポイントが向上している。

- 学校は豊かな人間力を育もうと取り組んでいる
- 学校は子どもの健康や安全に十分に配慮している
- 学校の進路指導は豊富な情報提供など丁寧に指導している

普通科として卒業後に広く社会に貢献できる人材の育成を目指している学校の方針が評価されたと思われる。生徒偏と同様に災害時等の学校の取り組みに対する評価だと思われる。また、進路指導については、日頃の指導の積み重ねが重要であり、今後も継続していくことが重要である。

- 学校は授業以外でも学力増進のための教育活動に取り組んでいる
- 学校の学習指導によって学力が向上し満足している
- 施設設備の面で学校の学習環境は整備されている
- 入学させてよかったと満足している

以上の4項目が減少している。施設面での整備は本校の取り組みだけでは解消が困難な面がある。

学力の2点については、非常に重要なポイントであり、学力向上委員会を中心に教員研修の充実を図ること、また、総合的な探究の時間や外部機関との連携を図ることに取り組み始めている。

学力保障と施設の充実が図られていないことが、入学後の満足の評価の低下につながっているが、90%を超えていることは一定の評価であると考ええる。

①：肯定的回答の割合 ②：否定的回答の割合

項 目	平成 30 年度	平成 29 年度
学校は豊かな人間力を育もうと取り組んでいる	①88.3	①84.3
学校は子どもの健康や安全に十分に配慮している	①86.8	①85.3
学校の進路指導は豊富な情報提供など丁寧に指導している	①78.0	①76.5
学校は授業以外の講習や補習など学力向上のための場を設定している	②26.9	②21.2
学校の学習指導によって学力が向上し満足している	②34.0	②31.5
施設設備の面で学校の学習環境は整備されている	②54.6	②51.8
入学させてよかったと満足している	②9.9	②7.1

教 職 員 編

肯定的な回答が80%を上回ったのは6項目(昨年度は5項目)。また、昨年度を上回った項目は3項目、下回った項目は13項目である。

- 「人権教育」は数年来の本校の課題であり、やや数値が向上した。人権教育推進委員会を設置し、徐々に組織的に取り組みを始めたことが機能始めたことが、まだ不十分である。
- 「PDCA サイクルに沿った改善思考」が前年度と比較して、大きく評価が低下している。学校経営、学校教育の根幹というべき点において低い評価であったことを真摯に受け止めたい。教職員が PDCA サイクルの重要性を意識することが浸透していることも考えられる。
- 授業力の向上に関する項目では、「自己研鑽の時間や生徒と向き合う時間は」若干向上したが、「学習計画や評価に関する議論」は評価が低下していることから組織としての取り組みを推進していくことが重要である。引き続き、授業力向上委員会も含めた授業力向上の取り組みを進めていく。
- 学校の発信力も課題であり、「保護者や社会への発信」の項目でも評価が低下しており、ホームページ、緊急連絡網や学校説明会の充実する必要がある。また、日常の保護者との丁寧な 情報共有や情報提供についても検証することも必要である。
- 「生徒の健康・安全」は保護者と相反して低下しているが、84.6%である程度評価はある。地震の 際の安否確認のための緊急連絡網の体制整備が急務である。

①：肯定的回答の割合 ②：否定的回答の割合

項 目	平成 30 年度	平成 29 年度
学校の人権教育体制は十分に機能している	①51.9	①42.6
学校には P D C A サイクルに沿った改善思考が浸透している	②50.0	②32.8
各教科において学習指導計画や評価について十分な議論がなされている	①73.1	①81.1
学校は特色や教育活動を保護者や社会に発信するように努めている	②25.0	②17.3
学校は生徒の健康や安全に十分配慮している	②15.3	②3.8